

福島市役所への抗議文

日本が武力侵攻を受けたとします。
その時、「福島市は平和政策として、ホームページ上で平和宣言をし、福島市役所入り口へ《非核平和宣言都市》ののぼりを立て、福島駅西口へ《非核平和宣言都市》の看板を設置し、日本を護るために精一杯頑張ってきたが力が及ばなかった」と言って国民を納得させるつもりですか。

「平和平和と机上の空論を掲げて市民をミスリードし、日本の平和を壊そうとしてきた自治体がある。福島市がそうだ」と批判されるはずです。

●最終責任を取る覚悟を決めていない者による行動は無責任過ぎます（裏面参照）。皆さんが最高責任者（総理）だったとしても同じ行動を取るでしょうか。最高責任者はどれだけ努力しても悪く言われます。逆に責任のない立場で安泰な生活を送っている者は、どれだけ無責任なことをしても責任を背負わされません。そのため、怠慢な生活習慣に慣れ、自惚れる傾向にあります。

●核廃絶が平和につながるという根拠を示してください。日本が一方的に核廃絶をしたところで、近隣諸国がこれに準じるとは思えません。「準じる」と宣言したしても、口だけかもしれません。福島市は国防の最終責任者ではありません。そのため無責任な行動に走りやすい立場にあります。その点を踏まえ、暴走を自粛して頂きたいものです。

うらへ→→

安倍総理のすばらしい外交手腕と軽薄な湯川氏

安倍総理（第一次安倍政権のとき）が温家宝と会談した時のこと。中国側、日本の外務官僚、中国とズブズブの日本の国会議員らから安倍総理は「拉致問題だけは口にしないように」と圧力をかけられていたそう。そこで安倍総理は機転を効かせ、わざと温家宝に近寄って行き、耳元で「中国も拉致はありましたよねっ」と仰ったそう。それで温家宝がギクッと固まってしまったのだそう。

温家宝は、安倍総理には中国側の不当な要求は通らないと断念したはず。外交は戦略を練ってから臨まなくては行けない。日本は中国になめられてきた。日本が誠実に対応すればするほどつけ込まれる。恩を仇で返される。そういう関係の時、中国が拉致問題を口にすると行ってきたら、敢えて口に出したほうが良い。ならず者が望むことの反対の行動をとれば相手は不当な要求をやめる。そういう戦略ができるのは、安倍総理が本気で日本のことを考えていらっしゃるからだ。

かたや先般、「大雪災害で孤立する民家が多い中、総理、天ぷらなど召し上がってる場合ではないのでは？」と湯川れい子氏がツイート。湯川氏に対する反論が多く「湯川氏は何をしていた?! 助けに行ったのか?!」と問われ、「知り合いに政治家たちに連絡していた」と答えたそう。

政治家は除雪作業員ではない。政治家へ連絡したところで何ら解決にはならない。湯川氏が助けたいと思うなら、助けるための『段取り』を取ることが必要。政治家への連絡は無駄な動きでしかない。

湯川氏から連絡を受けた政治家にしてみれば「丸投げ」されたことになるのだが、湯川氏は活動をしたつもりでいる。

そもそも天災に被害者はいても加害者はいないと思う。
外交問題山積の総理になんでもかんでも責任を押しつけるべきではない。

湯川氏は豪雪問題に限らず、苦勞をかってでたこともなければ、最終責任を取ったこともないはずだ。成果を上げるには段取りと戦略が必要であり、感傷的な机上の空論ではダメなのだ。「可哀想、気の毒に」と言う暇があるなら段取りを取るべきだ。

これは湯川氏に限ったことではない。多くの『自称社会派』は役に立たない。欲深く、保身にエネルギーを注ぎ、動くために動いていて成果主義ではないからだ。

『自分が能力不足だから、社会がなかなか良くならない』と正しく総括できる日本人が増えれば日本は急激に良くなるはずだ。あなたが思うほどにあなたが有能だとするならば、今頃、あなたはその立場にはいないはず。

〒 960-8066 福島市矢剣町 11-3 星野節子 024-563-7650（電話、ファックス）

→うらへ